

「こころとからだの痛み研究会」第 20 回学術集会 案内

会長：加藤眞三 先生

テーマ：「大転換期に求められる医療とは」

日時：令和 8 年4月12 日(日) 10時～16時

会場：東京教育専門学校 7階会議室

住所：〒171-0031 東京都豊島区目白 2-38-4

電話：03-3983-3385

アクセス：JR 目白駅前(学習院大学の向かい側)

会費(弁当代込み)：医師・歯科医師：10000円、医療・薬学関係者など：8000円、
製薬会社関係者：10000円、その他：6000円

(昼休みに弁当をめし上げて頂き、この間に自己紹介と総会を行います。)

参加方法：参加希望と明記して2月末までに事務局(下記参照)にご連絡下さい。

沿革

「こころとからだの痛み研究会」は 1988 年に創立された「痛みと漢方シンポジウム」に遡りますが、1989年に「難治疼痛症例ワークショップ」として独立し1998年まで続きました。翌年に有志により復活させて「こころとからだの痛み研究会」と名前を変えました。一時は休止した事もありましたが、現在、年に 2 回学術集会を開催しています。

目的

本会は「痛み」の集学的治療を勉強するために、多業種の医療介護職などによる意見交換を行い、包括的医学の研究および啓蒙・普及を目的にしています。

前回の学術集会(令和7年10月13日)について

テーマは「Well-being について」でした。

会長の前澤眞理子先生(クリニック飯塚院長、小児神経科医)は基調講演として「小児神経科学から見た Well-being」をお話しされました。

井上冬彦先生(井上胃腸内科クリニック理事長、日本写真協会会員)は『生命の不思議 —「命」と「いのち」』という演題でお話しされました。

香川由美先生(岩手医科大学教養教育センター人間科学科心理学・行動科学分野)は「私たちは相手の身になれるか」という演題でお話しされました。

福場将太先生(医療法人 風のすずらん会 美唄すずらんクリニック 副院長)は「視覚障害が精神科臨床にもたらした効能(見えない痛みを想像する)」という演題でお話しされました。

「こころとからだの痛み研究会」第 20 回学術集会 プログラム

10時～10時半

基調講演:「人類の大転換期を迎えての医療とは」
加藤真三 先生(エムオーエイ高輪クリニック 院長)

10時半～12時

ロールプレイング“うつ病と線維筋痛症を合併した患者さんの診療”
(Solution-Focused-Approach の実際)

林剛彦 先生(ハヤシクリニック 院長:患者役)、
山田寛幸 先生(六郷土手駅前こころとからだの痛みクリニック 院長:医師役)
佐藤武先生(佐大通り心療クリニック 院長:解説)

「“Solution-Focused-Approach”はブリーフセラピーに分類される心理療法で、最短・最強とされています。長年、臨床応用して来た 2 人によるロールプレイングを行い、その後、その他の心理療法との比較検討も含めて解説します。」

12時～13時

昼食(弁当配布)、自己紹介、総会

13時～14時半

演題:「口腔顔面痛 正しく診断し患者さんを支える」
和嶋浩一 先生(元赤坂デンタルクリニック 院長)

14時半～16時

演題:「精神科医の立場から」(仮題)
井原裕 先生(獨協医科大学埼玉医療センターこころの診療科 教授)

16時～17時

懇親会(同会場で行います 参加費無料)
ミニリサイタルを同時に行う予定です。

「こころとからだの痛み研究会」

“THE COMPREHENSIVE RESERCH SOCIETY ON HOLISTIC TREATMENT FOR
PSYCHOSOMATIC PAIN”

代表世話人 山田寛幸

〒144-0055東京都大田区仲六郷4-28-1

「六郷土手駅前こころとからだの痛みクリニック」内

E-Mail : yamada0324hi@gmail.com

FAX : 03-6424-7859